

市長提案説明要旨

令和4年8月31日

本日ここに令和4年第3回鹿嶋市議会定例会の開会に当たり、市政運営に関する所信の一端と、当面の事業概要並びに提出いたしました議案などを説明申し上げます。

《はじめに》

<新型コロナウイルス感染症の情勢>

第7波となる新型コロナウイルス感染症につきましては、7月に入り、オミクロン株の変異株「B A. 5」への置き換わりとともに爆発的に拡大し、今月19日には全国の日当たりの新規陽性者数が最多を更新し、26万人を超えました。茨城県におきましては5日に4,833人を、本市でも19日、過去最多となる168人の新規陽性者が確認され、新学期に入り、学校を中心に再拡大が懸念される状況にもなっております。

重症化率は高くないと言われるオミクロン株ですが、高齢者や基礎疾患のある方にとりましては脅威でありますし、感染後の後遺症についても指摘されております。医療提供体制及び社会経済活動を維持していくためにも、市民の皆様には、今できる感染症対策の徹底をお願いいたします。

改めまして、基本的な感染予防対策となる必要な場面でのマスクの着用、手洗い、三密の回避、換気の徹底とともに毎日の健康観察もお願いします。

また、本市では、来年3月まで無症状の市民に対しPCR検査を行うこととしておりますので、有効に活用いただきたいと思います。早期に感染を見つければ、周囲への感染拡大を防ぐことができます。

そして、ワクチンの接種です。ワクチンの接種につきましては、鹿嶋医師会の松倉会長を始め市内医療機関の御尽力のもと、各対象者に応じて順次接種を進めてまいりました。

現在、本市では、約7割の方が3回目接種を完了していますが、10代が約4割、20代の方は約6割の接種率となっております。時間の経過とともに1、2回目接種の初回免疫効果は低下しますが、3回目の接種により感染予防や発症予防、重症化予防の効果は回復します。若い方であっても、感染により重症化することや後遺症が生じることもありますので、ぜひ接種を御検討ください。

4回目接種でも、重症化予防効果の回復が期待できます。60歳以上の方、基礎

疾患を有する方，医療従事者・高齢者施設等従事者が対象となっていますので，こちらもぜひ接種を御検討ください。現在，市内医療機関のほか，茨城県の大規模接種会場となっている鹿島セントラルホテルでも実施しておりますので，早めの御予約をお願いいたします。

今般，オミクロン株に対応したワクチンについて，早ければ10月半ば以降に接種が開始となる見込みであることが国から示されました。今後，詳細が決定した際には，国の方針等を踏まえ，引き続き市民の皆様が安全かつ円滑に接種できるよう，市内医療機関の御支援御協力をいただきながら準備を行い，接種体制の確保に努めてまいります。

今回の第7波におきましては，これまでのような行動制限は行われていませんが，本市では，その都度，状況を判断し，一部集客イベントを中止・延期といたしました。準備に携わっていただいた関係者や開催を心待ちにしていた市民の皆様には，申し訳ございませんが，御理解いただきたいと思います。

また，2年以上にわたるコロナ禍において，市としまして，市民，あるいは事業者の皆様に対し様々な支援を行ってまいりました。本定例会においても，色々要望を伺う中で，総合的に判断し，子育て世帯支援，PCR検査の推進などについて，補正予算を計上いたしました。今後とも市民の皆様への安全・安心を第一に考え，適時，適切に必要な予算措置を講じてまいります。

<行財政改革>

私は，市長就任に際し，目指すまちの姿を「明るく，心豊かに暮らせるまち鹿嶋」とし，その実現へ向けて設定したNext鹿嶋「5本の柱」と称した主要目標の一つに「行財政改革」を位置づけております。

現状における，これからの本市の人口とその構成，産業構造から考えると，財政面においては，今後，市税収入が減少する一方，少子高齢社会の進行による相対的な社会保障費の増加や公共施設，ICT機器の維持管理や更新などによる歳出増が見込まれ，経常収支比率も高い割合での推移が想定されます。また，財政調整基金をはじめとする各種基金残高も類似団体に比して低い状態にあるなど，これまでと同じ予算規模を維持していくことは困難であり，市民サービスへの影響が懸念されます。

本市が現在の「鹿嶋市」としてあり続けるために，そして持続可能なまちづくりを進め市民サービスを継続するうえで，その根幹をなす市財政においては，歳入増，歳出減を念頭にした運営が必要となります。取り組むべき行政課題の優先度を見極めながら，政策を整理し再構築することにより，限られた財源の効果的・効率的な活用を図るとともに，市税以外の新たな財源の確保などに取り組んでいかなければ

なりません。同時に、多様化・複雑化する行政需要へ応える市職員については、仕事の方向性、質、スピード面における政策力の向上並びに働き方改革を進めていく必要があります。これらについて、私自身が先頭に立ち、進めてまいりたいと考えております。

「一人の百歩より百人の一步」と言われるように、組織として同じ方向に進むためには、まず政策を実行する市職員に私の考えを理解してもらう必要があります。先般、私の政策の概要、考えを伝えるとともに、私自身が職員の考えを聞く中で、気づきを得て、より広い視点から各種政策を遂行したいとの思いから、全管理職と補佐級を対象に意見交換会を開催しました。22回にわたり、延べ148人と1回1時間、148時間をかけ実施し、参加した職員に私を知ってもらうとともに私も多くの職員を知ることができました。今後、業務を進めるうえで大変有意義な機会となったと思っております。

そこでも伝えたのですが、私は普段エビデンスを持って論理立て、その上で仕事を進めることを意識しております。物事を体系的に整理し、矛盾や飛躍がない筋道を立てれば、誤った方向に進むことも無くなるでしょうし、更にそれを「見える化」すれば、相手の納得も得られるものとなります。また、論理的に業務を進めるうえで欠かせないものが数値です。各種事業における各々の要素を数値化し比較検討することにより、課題箇所の把握、目標の設定、成果並びにその評価も具体性を持つことで容易になります。そして、数値は思った方向に事業が進んでいないことも顕著に表し、失敗を認め、潔く方向転換するためにも必要です。

今後、市職員には論理立てて仕事を進めてもらいたいと考えており、研修等の機会を確保してまいります。

財政面において、まず取り組むべきは歳出の縮減であり、早急に取り組まなければならないものが、事業・業務の断捨離です。本市で現在実施している事業・業務の中には、無理に実施している、無駄が多い、ムラが多く惰性で行っているものが少なからずあるかと考えております。当然それらについては、廃止、縮小、改善を進めていかなければなりません。この間、まず、各所属長に所管事業はもとより他部署の事業を含めて、各種事業を評価してもらっており、100を超える事業に約180件の評価が挙がってきております。これら事業については、再度精査し、その扱いを判断してまいります。

また、改めて市の全事業並びに出資団体について、その目的や特に一般財源に焦点を当てた財源内訳、成果とその評価についてフォーマット化し、一見して解るよう見える化を進め、各々の事業や団体の方向性について比較検討の俎上に載せてまいりたいと考えております。

一方、歳入については、その増額を目指し、現在、ふるさと納税の積極的な展開へ向けた準備を進めております。

先般、県内で実績のある2自治体を私自身訪れ、それぞれの取り組み概要について直接説明を受けてまいりました。本市でのふるさと納税事業の参考になる事項も多々あり、早速、庁内関係部署において、それらの情報共有と本市における今後の取り組みについて検討を開始しております。事業概要がまとまりましたら、関係者と調整、協力を得ながら新たな展開を図ってまいります。併せて、現在一部事業を対象に寄付を受けている企業版ふるさと納税や公民連携事業の活用及び導入を推進するとともに、現在実施している事業においても、活用可能な助成制度の有無について、改めて確認することを指示しているところです。

なお、今年度当初で予算化している事業の一般財源分につきましても、今後、新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金へ振り替えてまいります。

また、数年来議論されてきた、本市歴史の市民理解・伝承や歴史資料の収集・整理・研究・保管を主要目的とした歴史資料館の整備については、施設整備費や運営コストから、行財政改革の一環として事業の中止を決断し、今定例会の補正予算におきまして関連予算を減額しております。

《事業の概要等》

続きまして、鹿嶋市のまちづくりの実績と当面の事業概要について、御説明申し上げます。

(元気で賢い鹿嶋っ子育成／共に学び成長しながら生きる)

○コミュニティ・スクール推進事業

地域住民と学校教職員との連携・協働による「学校運営協議会制度・コミュニティ・スクール推進事業」を、令和4年4月から市内全小中学校でスタートさせております。本事業では、それぞれの地域の実情に応じて協議会委員を15から20名程度で構成し、学校運営に関する協議を深めながら、魅力ある学校づくり、魅力ある地域づくりに取り組んでまいります。これまでの学校運営の取組を更に向上させ、「地域とともにある学校づくり」・「学校を核とした地域づくり」を推進してまいります。

○かしま子ども大学事業

市内小学5・6年生を対象として、子どもたちが普段触れることのない知識や体験活動を提供することで、知的好奇心や探求心を育むことを目的に令和元年度よりスタートした「かしま子ども大学」においては、本年度、7月から11月に全7講

座を設定し、気象、建築、洋上風力、スポーツなど様々な分野の授業を用意いたしました。

開校から2回の授業を行い、参加した子どもたちが楽しく学ぶ様子を報道等で御覧になった方もいらっしゃるかと思います。引き続き子どもたちの将来の夢の裾野を広げられるような充実した講座をつくり上げてまいります。

○地域子育て支援センター整備事業

鹿嶋市の未来を担う子どもたちの健やかな成長に向け、さらなる子育て支援の充実を目指し、現在、宮中地区に新たな「子育て支援センター」の建設を進めております。

去る7月22日、関係者の皆様の御参列により、工事の安全が祈願されました。今年度末の完成に向けて、周辺地区の道路整備と併せて建設工事を進めており、近隣にお住いの皆様をはじめ、市民の皆様には、工事車両の出入りや騒音など、御迷惑をおかけしますが御理解をお願いいたします。

○子育て世帯応援商品券事業

長引くコロナ禍と物価高騰に直面する子育て世帯への支援として、18歳までのお子さんのいる世帯に、市内の鹿嶋市プレミアム付地域応援チケットの取扱店舗で使用できる「子育て応援券」の配布を計画しております。

詳細が決まり次第、公式ホームページやSNS等でお知らせいたします。

(暮らしやすく、生きがいのあるまち鹿嶋／スポーツに親しみ健康に生きる)

○みんなのスポーツフェスタ in KASHIMA

今年5月から民間企業やスポーツ団体と連携した「みんなのスポーツフェスタ」を毎月第4土曜日に開催し、これまで4回の開催に総勢1,000人を超える方々が参加されております。

このイベントでは、「スポーツと健康づくり」をテーマに、ウォーキングや各種スポーツ・レクリエーションのほか、握力測定や血管年齢測定などのプログラムを体験していただいております。引き続き、来年3月まで、多くの方に「スポーツ」を楽しみ、「健康」に関心を持っていただけるよう開催いたします。

(行ってみたい、暮らしてみたい鹿嶋・次世代も輝く雇用のある鹿嶋 ／環境未来都市・鹿嶋をつくる)

○鹿嶋市海水浴場入込み実績

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により2年間、開設ができなかった海水浴場を下津・平井ともに3年ぶりに開設いたしました。連日の猛暑もあり県外からの来訪者も多く、7月16日から8月16日の開設期間で、43,387人の来場者

を数えております。

○鹿嶋市プレミアム付き商品券事業

新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けている、市内の事業者支援とデジタル化の推進を目的に、市内においては初めてとなるデジタル商品券と紙商品券の二種類のプレミアム付き商品券を販売します。申込は9月12日から、利用期間が10月20日から来年2月12日までを予定しております。全店舗使用可能な共通券には10%、小規模店舗専用分には40%のプレミアム率を付し、それぞれ5千円で販売します。また、総販売額はデジタル分1億5千万円、紙分5千万円とし、購入上限をそれぞれ一人2万円、1万円としております。詳しくは、9月1日号の広報かしまを御覧ください。

○チャレンジショップ支援事業

令和2年度より、中心市街地の空き店舗等を活用した新規の出店者に対し、補助金を交付しています。この補助制度を活用し、令和3年度末までに5店舗が出店し今年度も既に3店舗の出店があり、新たな賑わいを創出しつつあります。

○第30回鹿嶋まつり

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、2年間中止となっていた「鹿嶋まつり」であります。今年度につきましても、現在の感染状況から、先般、中止を決定いたしました。大変残念であります。御理解いただきたいと思います。

○鹿嶋市花火大会

同じく、2年間中止となっていた鹿嶋市花火大会につきましては、例年8月末の開催を延期し、11月26日、土曜日に3年ぶりとなる開催を予定しています。これまでより打上時間を短縮するなど感染対策を十分講じながら準備を進めて参ります。なお、新型コロナウイルス感染症の感染状況によっては、中止となる場合があります。

○洋上風力発電

洋上風力発電設備の基地港湾に指定された鹿島港外港地区では、令和6年度の供用に向けて国による工事が進んでおりますが、市では、洋上風力関連産業の拠点形成等による地域振興策を示す「鹿嶋市洋上風力発電事業推進ビジョン」を策定中です。

今月5日には、3回目の策定委員会を開き、ビジョンの原案について、産官学からなる委員の皆様から貴重な御意見をいただいたところです。

今後は、国や県、そして事業者、地元の関係する皆様などからの御意見を踏まえて精査し、10月の策定委員会で最終案を審議していただき、パブリックコメントを経て、年内の策定を予定しております。

鹿島港を中心としたこの地域において、新たな産業の拠点形成と地域との共生を目指すとともに、カーボンニュートラルの推進に取り組んでまいります。

以上、まちづくりの実績と当面の事業概要について御説明申し上げます。

《決算認定》

次に、本定例会で認定いただく、令和3年度決算についてであります。

一般会計につきましては、歳入総額が、前年度比16.2% 56億2,093万3千円減の289億7,015万1千円、歳出総額が、前年度比19.3% 65億5,024万5千円減の273億5,612万円となりました。

歳入歳出の大幅な減の要因としましては、新型コロナウイルス感染症対策関連によるものとなります。歳入は、地方交付税をはじめとした交付税関係が増となる一方、市税や社会福祉費補助金などの県支出金、減収補てん債をはじめとした市債の減、並びに令和2年度に実施した特別定額給付金事業の皆減による国庫支出金が大幅減になっております。歳出につきましては、民生費が非課税世帯等臨時特別給付金事業や子育て世帯への臨時特別給付金事業により増となる一方、特別定額給付金給付事業等の皆減により総務費が大幅減、鹿島地方事務組合負担金に係る衛生費の減、鹿島中学校大規模改造工事の終了などにより教育費が減となりました。

実質収支は、13億4,205万7千円の黒字となり、この2分の1相当額以上として、6億8,000万円を財政調整基金へ積み立て、本年度への繰越金は6億6,205万7千円となっております。

特別会計につきましては、7会計の総計といたしまして、歳入が3億4,349万9千円増の130億2,878万1千円、歳出が4億4,386万5千円増の126億7,413万3千円となり、歳入歳出の差引額は3億5,464万8千円の黒字となりました。

引き続き、市を取り巻く環境変化に対応した予算規模を推計しながら、持続可能で安定的な財政運営ができるよう行財政改革の取り組みを進めてまいります。

《提出議案等》

次に、提出しました議案について御説明申し上げます。

提出議案は、予算関係議案5件、条例関係議案2件、人事関係議案2件、道路関係議案1件、諮問議案1件、認定議案3件、合わせて14件であります。

予算関係議案は、令和4年度の一般会計及び特別会計などの補正予算になります。

一般会計補正予算においては、歳入歳出それぞれ1億1,715万9千円を追加しております。歳入において震災復興特別交付税、新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金など、また、歳出においては、子ども子育て支援事業や道路維持補修工事費、そして歴史資料館整備事業などを計上しております。

介護保険特別会計補正予算においては、国庫支出金返還金などを計上しております。

農業集落排水特別会計においては、施設維持補修工事費を計上しました。

下水道事業会計と水道事業会計については、職員給与費などを計上しております。

条例関係議案は、市職員の降給及び定年等に関する条例であります。

人事関係議案は、鹿嶋市教育委員会委員の任命に当たり、議会の同意を求めるものです。

道路関係議案は、市道路線の認定についてであります。

諮問議案は、人権擁護委員候補者の推薦について、議会の意見を求めるものです。

認定議案は、令和3年度一般会計及び特別会計などの決算認定であります。

私の説明は以上で終わりますが、予算及び決算認定以外の議案につきましては、総務部長から補足説明をさせていただきます。

お手元の議案書によりご審議のうえ、適切な議決を賜りますようお願いいたします。